

平成 29 年度  
日本商工会議所

---

# 第147回

## 簿記検定試験

3 級

【解答・解説】

この解答例は、当社で作成したものです。  
解答中に記載してある配点は、当社で考えた予想配点です。

**LEC**東京リーガルマインド

著作権者 株式会社東京リーガルマインド  
(C)2017 TOKYO LEGAL MIND K.K., Printed in Japan  
無断複製・無断転載等を禁じます。  
有効期限 2017年11月19日/2018年2月24日

  
0 000212 173141  
BL17314

# 第147回 解 答

## 第1問 (20点)

	仕 訳			
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	旅 費 交 通 費 雑 損	30,000 8,000	現 金 過 不 足 受 取 手 数 料	20,000 18,000
2	租 税 公 課 資 本 金	368,000 222,000	現 金	590,000
3	前 受 金 売 掛 金 発 送 費	40,000 388,000 5,000	売 上 金 現 金	428,000 5,000
4	受 取 利 息	36,000	未 収 利 息	36,000
5	未 収 入 金	1,560,000	有 価 証 券 有 価 証 券 売 却 益	1,540,000 20,000

仕訳1組につき4点。

## 第2問 (10点)

(1)

### 商品有高帳 A 商品

平成29年	摘 要	受 入			払 出			残 高		
		数 量	単 価	金 額	数 量	単 価	金 額	数 量	単 価	金 額
10	1 前月繰越	80	210	16,800				80	210	16,800
	8 仕 入	200	217	43,400				280	215	60,200
	15 売 上				230	215	49,450	50	215	10,750
	22 仕 入	250	221	55,250				300	220	66,000
	29 売 上				240	220	52,800	60	220	13,200
	31 次月繰越				60	220	13,200			
		530		115,450	530		115,450			

(2)

純売上高	売上原価	売上総利益
¥ 152,700	¥ 102,250	¥ 50,450

につき2点。

第3問 (30点)

残高試算表

借 方		勘 定 科 目	貸 方	
7月31日	6月30日		6月30日	7月31日
★ 288,000	360,000	現 金		
★ 1,578,000	620,000	普 通 預 金		
70,000	50,000	当 座 預 金		
★ 62,000	50,000	売 掛 金		
270,000	270,000	繰 越 商 品		
12,000	8,000	仮 払 金		
1,320,000	1,320,000	建 物		
970,000	620,000	備 品		
2,200,000	2,200,000	土 地		
		支 払 手 形	100,000	60,000
		買 掛 金	830,000	★ 961,000
		未 払 金	—	★ 15,000
		所得稅預り金	45,000	9,000
		借 入 金	—	1,200,000
		資 本 金	4,520,000	4,520,000
		売 上	5,980,000	★ 7,186,000
★ 5,534,000	4,570,000	仕 入		
455,000	455,000	支 払 手 数 料		
★ 964,000	800,000	給 料		
65,000	50,000	水 道 光 熱 費		
41,000	30,000	通 信 費		
60,000	42,000	旅 費 交 通 費		
★ 45,000	20,000	消 耗 品 費		
13,000	10,000	租 稅 公 課		
★ 4,000	—	支 払 利 息		
13,951,000	11,475,000		11,475,000	13,951,000

★につき3点。

第4問 (10点)

支 払 手 数 料

( 4/11 ) (普通預金) ( 300)	12/31	(前払手数料) ( 40,000)
( 12/1 ) (現金) ( 60,000)	"	(損 益) ( 20,300)
( 60,300)		( 60,300)

前 払 手 数 料

12/31 (支払手数料) ( 40,000)	12/31 (次期繰越) ( 40,000)
-------------------------	------------------------

□につき2点。

# 第 147 回 解 答

## 第 5 問 (30 点)

### 精 算 表

勘 定 科 目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
現 金	89,000						89,000	
普 通 預 金	369,000		13,000	38,000			344,000	
売 掛 金	270,000			20,000			250,000	
仮 払 金	30,000			30,000				
繰 越 商 品	226,000		189,000	226,000			189,000	
建 物	870,000						870,000	
備 品	360,000						360,000	
土 地	900,000						900,000	
買 掛 金		198,000	38,000					160,000
前 受 金		68,000	20,000					48,000
貸 倒 引 当 金		3,000		2,000				5,000
建物減価償却累計額		522,000		29,000				551,000
備品減価償却累計額		180,000		90,000				270,000
資 本 金		1,234,000						1,234,000
売 上		4,890,000				4,890,000		
受 取 家 賃		45,000	15,000			30,000		
仕 入	2,560,000		226,000	189,000	2,597,000			
給 料	1,300,000		37,000		1,337,000			
通 信 費	39,000				39,000			
旅 費 交 通 費	27,000		17,000		44,000			
保 険 料	100,000			40,000	60,000			
	7,140,000	7,140,000						
貸倒引当金繰入			2,000		2,000			
減 価 償 却 費			119,000		119,000			
(前払) 保険料			40,000				40,000	
前 受 家 賃				15,000				15,000
未 払 給 料				37,000				37,000
当期純 (利益)					722,000			722,000
			716,000	716,000	4,920,000	4,920,000	3,042,000	3,042,000

につき 3 点。

## 【3級総評】

全体としては基本から標準レベルの問題でした。過去に出題されている論点も多く、合格答練などでしっかりと準備していれば、合格点を取ることは十分に可能な難易度でした。ただし、第3問の試算表作成でのICカードの資料や、第4問の支払手数料の勘定記入などでは、読解力や基本的事項の理解を問う工夫がされており、戸惑った受験生もいたかもしれません。

## 【解説】

## 第1問

仕訳に関する問題です。勘定科目は指定された中から最適なものを選んで、正確に記入する必要があります。

## 1. 現金過不足の決算整理

問題文より、期中に、現金の帳簿残高に対して実際有高が不足していた分を現金過不足で処理しています。決算にあたり、現金過不足を全額取消し、判明した事実である通信費の支払いと受取手数料の受取りを仕訳します。貸借差額が借方に生じるので雑損で処理します。

## 2. 税金・引出金

店舗にかかる固定資産税は租税公課として費用計上します。一方、店主の所得税は店主個人が負担するべきものなので、資本金の減少と考えます。引出金を使用する場合がありますが、語群より資本金で処理します。

## 3. 売上・売上諸掛

売上を¥428,000計上します。売上代金のうち¥40,000は前受金を充当し、残額は売掛金とします。また、当店負担の発送費は、語群より、発送費で処理します。

## 4. 未収利息の再振替仕訳

問題文より、前期の決算において、受取利息の見越しをしていることが分かります。よって、当期首に、再振替仕訳として前期末に行った仕訳の逆仕訳をします。

<前期末の処理>

(借) 未 収 利 息	36,000	(貸) 受 取 利 息	36,000
-------------	--------	-------------	--------

## 5. 有価証券の売却

売却した有価証券の売却代金と帳簿価額との差額を売却損益とします。なお、後日受取る売却代金は、未収入金で処理します。

売却代金：@ ¥780 × 2,000 株 = ¥1,560,000

帳簿価額：¥1,540,000

売却損益：¥1,560,000 - ¥1,540,000 = ¥20,000 (売却益)

**第 2 問**

## 問 (1)

商品有高帳の記入に関する問題です。商品有高帳は商品ごとの在庫に関する明細を仕入原価で記入する補助簿です。つまり、商品の数量や仕入原価に変更が生じた場合に記入をします。

移動平均法では、基本的には、仕入れの都度、平均単価を計算して払出単価を決定します。

商品有高帳を締切際には、月末残高の内容を払出欄に記入し、受入欄と払出欄の数量と金額の合計が一致することを確かめます。

10月1日 前月繰越

前月より繰越されてきたA商品の個数・単価・金額を受入欄に記入し、残高欄にも記入します。

10月8日 仕入

A商品を200個、@¥217で仕入れているので、商品有高帳の受入欄に記入します。

$$\text{平均単価} : \frac{\text{¥}16,800 + \text{¥}43,400}{80\text{個} + 200\text{個}} = \text{@ ¥}215$$

10月15日 売上

A商品を230個、@¥320で売上げているので、商品有高帳の払出欄に記入します。なお、商品有高帳は、商品在庫について記録する補助簿なので、売価で記入することはありません。あくまでも、払出した商品の原価に基づいて記入します。

また、払出欄に記入する単価は、売上げ直前の残高欄に記入されている単価です。

10月22日 仕入

A商品を250個、@¥221で仕入れているので、商品有高帳の受入欄に記入します。

$$\text{平均単価} : \frac{\text{¥}10,750 + \text{¥}55,250}{50\text{個} + 250\text{個}} = \text{@ ¥}220$$

10月29日 売上

A商品を240個、@¥330で売上げているので、商品有高帳の払出欄に記入します。

10月31日 売上値引

売上値引は、売価の減額修正であり、商品在庫の数量や単価には影響がないため、商品有高帳には記入しません。

## 問 (2)

## ① 純売上高

純売上高は、総売上高から売上値引、売上返品を控除した金額のことです。

総売上高：@ ¥320×230 個+@ ¥330×240 個=¥152,800

売上値引：@ ¥10×10 個=¥100

純売上高：¥152,800－¥100=¥152,700

## ② 売上原価

売上原価は、販売した商品の原価を意味します。

商品有高帳では、売上時に払出欄に記入した金額の合計額が売上原価になります。

売上原価：¥49,450+¥52,800=¥102,250

## ③ 売上総利益

売上総利益は、純売上高から売上原価を控除して算定します。

売上総利益：¥152,700－¥102,250=¥50,450

## 第147回 解説

### 第3問

残高試算表作成に関する問題です。[平成29年7月中の取引]に基づいて平成29年7月中の取引を仕訳し、6月30日時点の各勘定の残高に加減算して7月31日時点の各勘定の残高を求めます。なお、同一の取引が2箇所に記載されているものがあるため、二重に集計しないよう注意が必要です。

[平成29年7月中の取引]

#### (1) 現金に関する事項

a.	(借) 現 金	1,146,000	(貸) 売 上	1,146,000
b.	(借) 租 税 公 課	3,000	(貸) 現 金	3,000
c.	(借) 売 掛 金	2,000	(貸) 現 金	2,000
d.	(借) 通 信 費	1,000	(貸) 現 金	1,000
e.	(借) 普 通 預 金	1,180,000	(貸) 現 金	1,180,000
f.	(借) 仮 払 金	32,000	(貸) 現 金	32,000

#### (2) 普通預金に関する事項

a.	<del>(借) 普 通 預 金</del>	<del>1,180,000</del>	<del>(貸) 現 金</del>	<del>1,180,000</del>
b.	(借) 普 通 預 金	50,000	(貸) 売 掛 金	50,000
c.	(借) 普 通 預 金	1,196,000	(貸) 借 入 金	1,200,000
	支 払 利 息	4,000		
d.	(借) 買 掛 金	773,000	(貸) 普 通 預 金	773,000
e.	(借) 備 品	350,000	(貸) 普 通 預 金	350,000
f.	(借) 給 料	164,000	(貸) 普 通 預 金	155,000
			所 得 税 預 り 金	9,000
g.	(借) 所 得 税 預 り 金	45,000	(貸) 普 通 預 金	45,000
h.	(借) 通 信 費	10,000	(貸) 普 通 預 金	10,000
	(借) 水 道 光 熱 費	15,000	(貸) 普 通 預 金	15,000
i.	(借) 当 座 預 金	120,000	(貸) 普 通 預 金	120,000

#### (3) ICカードに関する事項

a.	<del>(借) 仮 払 金</del>	<del>32,000</del>	<del>(貸) 現 金</del>	<del>32,000</del>
b.	(借) 旅 費 交 通 費	18,000	(貸) 仮 払 金	18,000
c.	(借) 消 耗 品 費	10,000	(貸) 仮 払 金	10,000

#### (4) 売上げに関する事項

a.	<del>(借) 現 金</del>	<del>1,146,000</del>	<del>(貸) 売 上</del>	<del>1,146,000</del>
b.	(借) 売 掛 金	60,000	(貸) 売 上	60,000

#### (5) 仕入に関する事項

a.	(借) 仕 入	60,000	(貸) 支 払 手 形	60,000
b.	(借) 仕 入	910,000	(貸) 買 掛 金	910,000
c.	(借) 買 掛 金	6,000	(貸) 仕 入	6,000

#### (6) その他の事項

a.	(借) 支 払 手 形	100,000	(貸) 当 座 預 金	100,000
b.	<del>(借) 普 通 預 金</del>	<del>1,106,000</del>	<del>(貸) 借 入 金</del>	<del>1,200,000</del>
	<del>支 払 利 息</del>	<del>4,000</del>		
c.	(借) 消 耗 品 費	15,000	(貸) 未 払 金	15,000



第4問

勘定記入の問題です。各日付の取引を仕訳し、支払手数料勘定と前払手数料勘定に記入していきます。各取引の仕訳は以下の通りです。

4月11日 未払金の支払い

振込手数料について、支払手数料で処理し、支払手数料勘定へ転記します。

(借) 未払金	70,000	(貸) 普通預金	70,000
(借) 支払手数料	300	(貸) 普通預金	300

7月26日 土地の購入

土地を購入するための仲介手数料は、土地の取得原価に含めます。そのため、支払手数料勘定へは転記しません。

(借) 土地	1,215,000	(貸) 当座預金	1,200,000
		(貸) 現金	15,000

12月1日 調査手数料の支払い

調査手数料について、支払手数料で処理し、支払手数料勘定へ転記します。

(借) 支払手数料	60,000	(貸) 現金	60,000
-----------	--------	--------	--------

12月31日

① 決算整理

支払手数料の決算整理前残高に含まれている調査手数料¥60,000のうち、平成29年1月から2月までの2ヶ月分を繰延べます。以下の仕訳にもとづき、支払手数料勘定と前払手数料勘定に転記します。

(借) 前払手数料	40,000	(貸) 支払手数料	40,000
-----------	--------	-----------	--------

$$\text{前払手数料} : ¥60,000 \times \frac{2\text{ヶ月}}{3\text{ヶ月}} = ¥40,000$$

② 損益振替

支払手数料の決算整理後残高を、損益振替により損益勘定に振替えます。以下の仕訳にもとづき、支払手数料勘定に転記します。

(借) 損益	20,300	(貸) 支払手数料	20,300
--------	--------	-----------	--------

$$\text{決算整理後残高} : ¥300 + ¥60,000 - ¥40,000 = ¥20,300$$

③ 次期繰越の記入

資産である前払手数料勘定の次期繰越額について、次期繰越の記入をして勘定を締切ります。

## 第147回 解説

### 第5問

精算表作成に関する問題です。[決算整理事項等]にもとづいて未処理訂正事項及び決算整理事項の仕訳を行い、精算表の修正記入欄に記入します。次に残高試算表欄の金額に修正記入欄の金額を加減算し、収益・費用に属するものは損益計算書欄に、資産・負債・純資産に属するものは貸借対照表欄に記入します。

[決算整理事項等]の処理は次のとおりです。

#### [決算整理事項等]

##### 1. 買掛金の支払い

(借) 買掛金	38,000	(貸) 普通預金	38,000
---------	--------	----------	--------

##### 2. 仮払金の精算

仮払金を取消すとともに、旅費交通費を計上し、残額は普通預金の増加で処理します。

(借) 旅費交通費	17,000	(貸) 仮払金	30,000
普通預金	13,000		

##### 3. 誤処理の訂正

訂正仕訳をします。

(借) 前受金	20,000	(貸) 売掛金	20,000
---------	--------	---------	--------

※ 訂正仕訳は、①誤った仕訳の逆仕訳と②本来行うべきであった正しい仕訳を合算したものです。

① (借) 前受金	20,000	(貸) 現金	20,000
② (借) 現金	20,000	(貸) 売掛金	20,000

##### 4. 貸倒引当金の設定

3. 誤処理の訂正で売掛金が減少しています。修正後の売掛金の期末残高に対して、貸倒見積額を計算します。

(借) 貸倒引当金繰入	2,000	(貸) 貸倒引当金	2,000
-------------	-------	-----------	-------

貸倒見積額：(¥270,000 - ¥20,000) × 2% = ¥5,000

貸倒引当金繰入：¥5,000 - ¥3,000 = ¥2,000

##### 5. 商品の決算整理

期首商品棚卸高を繰越商品勘定から仕入勘定へ振替え、期末商品棚卸高を仕入勘定から繰越商品勘定へ振替えます。これにより、仕入勘定の決算整理後残高は売上原価を表します。

(借) 仕入	226,000	(貸) 繰越商品	226,000
(借) 繰越商品	189,000	(貸) 仕入	189,000

##### 6. 減価償却

定額法による1年分の減価償却費は「(取得原価 - 残存価額) ÷ 耐用年数」です。

(借) 減価償却費	119,000	(貸) 建物減価償却累計額	29,000
		備品減価償却累計額	90,000

建物：(¥870,000 - ¥0) ÷ 30年 = ¥29,000

備品：(¥360,000 - ¥0) ÷ 4年 = ¥90,000

7. 費用の繰延べ

支払済の保険料のうち、翌期分の保険料を繰延べます。

(借) 前 払 保 険 料	40,000	(貸) 保 険 料	40,000
---------------	--------	-----------	--------

$$\text{前払保険料} : \text{¥}60,000 \times \frac{8\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}40,000$$

8. 収益の繰延べ

当期に受取った受取家賃のうち、翌期分を繰延べます。

(借) 受 取 家 賃	15,000	(貸) 前 受 家 賃	15,000
-------------	--------	-------------	--------

$$\text{前受家賃} : \text{¥}45,000 \times \frac{1\text{ヶ月}}{3\text{ヶ月}} = \text{¥}15,000$$

9. 費用の見越し

当期末に未払いとなっている給料について、見越し計上します。

(借) 給 料	37,000	(貸) 未 払 給 料	37,000
---------	--------	-------------	--------